



YAMATO-NAKA ROTARY CLUB

1634号

会 長	横澤 創	会長エレクト	岸 幸博	事 務 所	大和市大和南2丁目1番1号
副 会 長	松崎正実	幹 事	入江公敏		大和中央ビル 301
会報委員会	小柳智裕	阿萬正巳	後藤定毅		TEL 046-262-1717 FAX 046-262-1818
	古郡 清	石川達男			E-mail : naka-office@ynrc.jp
例 会 場	八千代銀行 大和支店 4F (毎週木曜日)				URL : http://www.ynrc.jp

国際ロータリーテーマ

Peace Through Service

「奉仕を通じて平和を」 RI会長 田中作次

大和中ロータリークラブ会長ターゲット

週一度 みんなに会える 楽しみ

【本日のプログラム】 8月9日 クラブフォーラム「姉妹クラブのあり方・方向」 姉妹クラブ友好委員会
 【次回予告】 8月23日 卓話「プロゴルファーが語る極意」 Mark Kawashima

【第1629例会】平成24年8月2日(木) 【司会SAA】 橋本 日吉 君 【斉唱】「君が代」「我らの生業」
 【ソングリーダー】 北砂 明彦 君 【ゲスト】 春日 恵美子 理事長、目黒 裕 施設長(大和しらかし会松風園)

会長の時間 横澤 創 会長

社会福祉法人 大和しらかし会松風園理事長 春日恵美子様、施設長目黒裕様、ご家族の皆様が7月22日の奉仕プロジェクトのお礼にお見えます。



さて、8月は会員増強月間です。今月は会員全員で増強に集中しましょう。ちょっと思い浮かべて下さい。あなたの周りには大和中クラブにふさわしい方が必ずいるはずですよ。

田中作次RI会長は国際協議会のスピーチで会員増強について次のように言われています。「私たちが勧誘を行うのは入会者のためでもあるのです。私たちはみな、ロータリーから恩恵を受けロータリーを愛しています。入会を通じて自分と同じ幸せを人々にも味わってもらいたいと思っています。誰かに声をかける時にはこのことを思い出して下さい。」と。

あなたの周りのふさわしい方にも、大和中クラブ

への入会をお勧めして、RI会長の言われる「幸せのおすそわけ」をしましょう。

話は変わりますが、当クラブの大塚印刷石川達男会員に今年度のクラブ計画書、ポケット会員名簿を作って頂きました。画期的なデザインでとてもお洒落に出来ました。有難うございます。そのポケット名簿の会員欄の末尾に余白がありますが、年度途中で入会された会員のシールを作って張り付ける余白だそうです。何と8名分のスペースがあります。足りない場合は別冊を無料で作ると言っています。北島増強委員長に無言のプレッシャーをかけているポケット会員名簿であります。この余白が埋まるように、会員の皆さんで増強しましょう。そして、別冊に突入して石川達男会員の泣きの入った顔を、北島増強委員長のドヤガオを是非みんなで見たいものです。

8月30日の夜間例会は会員増強委員会の担当です。親睦委員会の企画するお楽しみもあります。あなたの周りのふさわしい方を是非例会に招待してください。半年後、1年後、2年後の入会でも結構です。

そして、大和中クラブがこんなに魅力あるクラブだということを大いにアピールしようではありませんか。

会員数	出席者	出席率	前々回修正	出席免除	欠席者 6名(敬称略)
40名	32名	84.21%	82.84%	6名	古郡、橋本吉宣、引田、神作、小柳、梅野

幹事報告 入江 公敏 幹事

松風園の理事長・施設長・ご家族の方が地引網のお礼を述べられ、感謝状を頂戴しましたが、お礼状が届いておりますのでお覽します。2012～13、2013～14年度クラブ国際奉仕活動アンケートが来ております。理事会に諮り回答をいたします。ロータリーカードの普及のお願いが地区より改めて来ております。ご協力お願いします。

委員会報告

出席委員会 中西 功 委員長
ロータリーは「出席」を大変大事にしていますが、クラブ定款第9条にもいろいろな決まりを決めて会員の例会出席を推奨しています。また例会に出席できない場合には、メイクアップ(欠席補填)制度で例会欠席を補填するように勧めていますので、今年度はぜひ「例会出席」「メイクアップ」に会員皆様のご理解とご尽力をお願いいたします。

中島 康次郎 会員
去る7月27日母が87歳で亡くなり、通夜、告別式に遠路クラブの皆様には出席いただき感謝しております。母は丈夫な人で、100歳まで頑張るつもりでおりましたが、昨年暮れ膠がん種が頭にできて余命僅かとなりました。ただ痛みがなかったので家族としては救われました。皆様に感謝しております。

会員増強・会員維持委員会 北島照介委員長
8月30日(木)は北京飯店での夜間例会です。この例会に多くのゲストの方に参加していただき、中ロータリークラブという団体を身近に接してもらい、我々のクラブへの入会を勧めたいと思っておりますので会員の皆様におかれましては、知人の方でこの人はという方がいらっしゃいましたら是非ともお誘いしていただきたくお願いいたします。

後藤 定毅 PG
ロータリーの友8月号に、先の3/11大震災に我がクラブをはじめ日本全国のクラブから寄せられた義捐金の活用について、当時のガバナー会に託し実現できなかった「ロータリー希望の風奨学金」の記事が載っています。我が地区では森年度に復興基金に一方的に振替えられましたが、残った地区と個人でこのように震災遺児のために立派に役立っていることが報告されています。

お祝いの方々
親睦活動委員会 北砂 明彦 副委員長
会員誕生日 高橋 政勝 君 8月4日
結婚記念日 石川 達男 君 8月8日

入会記念日 石川 健次 君 8月3日

クラブフォーラム

「ロータリーはどこへ向かうのか」
RI情報・研修委員会 石川 健次 委員長

横澤会長のクラブターゲットは「週一度 みんなに会える楽しみ」ですが、よく考えてみれば、この言葉はロータリアンにとって大変に深い意味があります。

何故なら、ロータリー活動の基本は、ロータリアンが毎週一回例会に出席して親睦を深め、ロータリー哲学である奉仕の心を学びながら充実させていくところにあるからです。

例会出席で育まれた親睦と奉仕の心は、やがてロータリアン個人がそれぞれの家庭、地域社会、国際社会で実践に移すこととなります。

他の社会奉仕団体は、社会を良くするために団体として奉仕活動をしています。ロータリーにも世界中のロータリアンが協力して取り組む大きな奉仕事業「ポリオ撲滅運動」などありますが、基本的には自分のクラブで奉仕の心を学び、個人生活、職業生活、社会生活に生かすことが目的とされています。

ロータリーは単なる社会奉仕団体ではなく、社会に有用な事業を営み、自らの職業を通じて社会に貢献していく考え方「職業奉仕」という概念を持つ奉仕団体と言われています。

本日のフォーラムは、誰が決めたのか知りませんが「ロータリーはどこへ向かうのか」という途方も無く大きなタイトルです。お役目ですから、本日はロータリーの歴史を紐解きながら、ロータリーが他の奉仕団体と何が決定的に違うのか、団体奉仕と個人奉仕の考え方を含めてお話しをさせていただきます。

決議23 - 24について
1910年代に入ってから、「実践を伴わないロータリーの理念」に飽き足らず、クラブとして「金銭的奉仕や身体的奉仕の実践」も積極的にしたいとする実践派が現れました。

1922年のロサンゼルス大会以降、実践派はますます活発になり、ロータリー創立の理念を守るべきというシェルドンを中心とする理念派との対立が深まって、ロータリーは分裂の危機に瀕したそうです。

はじめの議論は、クラブとして多額の金銭的支出を伴う団体奉仕活動がロータリーの奉仕として相応しいかどうかでしたが…。いつの間にか、個人奉仕と団体奉仕、さらには金銭的奉仕の是非にまで話が広がったそうです。

RI理事会は事態收拾のために、両派の考え方の調和を目指し、従来からのいろいろな奉仕の考え方や行動を整理・調和させるための努力を繰り返

返します。

最終的には1923年セントルイスの国際大会で、テネシー州ナッシュビルRCから提案された「決議23-34」の採択によって、論争の終止符が打たれ、両派の対立は解消しました。

(決議23-24は1923年の国際大会で提出された23番目の決議です)

決議92-286の採択 (社会奉仕に関する新方針)

90年前に生まれた素晴らしいアイデア「決議23-34」は、何度かの微調整を受けて受け継がれていました。しかし、1992年の規定審議会では、変革を続ける世の中には少々古臭くなったので、そろそろ撤廃しようという動きが出てきました。これは日本のロータリアンを除けば、当時の世界標準的な考え方だったと言われています。

結果的には、日本人のRI理事の尽力もあり社会奉仕に関する新声明として「決議92-286」が採択されることになりました。これは「決議23-34」に取って代わるものではなく、古い決議でも良いものは尊重して、共に使用されるという「但し書き」が付いています。

「決議23-34」では、個人個人が確固たる自主性と個別の目標を持ちながら、結果として一緒に活動することにロータリーの団体奉仕活動の特徴があるとしました。

「決議92-286」では、個人奉仕と共にクラブの団体奉仕を推奨し、更にRIが積極的に奉仕の実践例を提案することが銘記されています。

つまり、両者の大きな違いは「決議23-34」がロータリーの奉仕の実践全般に対する指針(=理念)であるのに対して、「決議92-286」は社会奉仕の実践のみに限られた指針であると考えられます。ではなぜ、完璧と思われた「決議23-34」が時代に合わなくなってきたのでしょうか。

これを社会奉仕活動の実践範囲から説明しますと、1905年のロータリー創設以来、世界中のロータリアンが日々努力を続け、ロータリーの発展のために頑張ってきました。

その結果、組織が飛躍的に大きくなったことによって、社会奉仕の活動範囲が地域社会より地球全体へと飛躍的に広がったことがあります。

今日では、既存の国際奉仕活動やロータリー財団の活動との関連を考え、連携しながら実施されるようになっていきます。今後は国際奉仕と社会奉仕活動が合体し、ロータリー財団の活動も加わって、渾然一体となって機能していくものと思われま。RIは、ロータリーが将来にわたり世界のあらゆる人々の役に立つ組織体であり続けるには、時代とともにどう変わっていくべきかという視点により、長期計画(戦略プラン)を作成し、より大きく、より豊かに、より大胆に活動できるように色々な改革を推し

進めているそうです。

全世界で200以上の国、33,000以上のクラブ、120万人の会員数、これにRAC、IACロータリー地域社会共同体など、ロータリー家族を含めると想像を絶する巨大組織です。

これをまとめて、一つの方向性や組織体としての成果・効率性を求め、その活性方法を考える時に、組織として長期的・戦略的な計画を持って運営していく必要があると考えることは当然のことだと思います。RIが長期戦略計画として、色々な改革を推進している理由はここにあるようです。環境が変化していく時に、組織も対応して変化しなければその存在は継続できません。

その一方で、どんなにRIが変化しようとも、やはりクラブが基本だと考える(心ある)ロータリアンは、職業奉仕を基本とするロータリーの原点が失われているのではないかと危惧しています。

良き伝統を守りながら、今、RIが進めている方向性や変革をどのような形で受け入れ、将来も発展するために、意見や方向性をまとめていけるか、大変重要な時期であると考えられます。

ところで、入会年度の新しい会員にとっては、ロータリーの特徴である職業奉仕の理念よりも、ロータリーという大きな組織・団体として、迅速で効果的な奉仕の実践をしたいと考えるのはごく自然なことであると思います。

一般社会においても、陰徳といわれる個人奉仕よりも、派手でわかりやすい団体奉仕のほうがロータリーの活動として認知されやすいことは容易に想像が付きま。

これは、先の奉仕プロジェクトの事業「地引網やバーベキュー」を見ても、参加した会員は皆、お招きした人たちの喜ぶ顔を見て、ある種の達成感・満足感を得られました。

しかし、オールドロータリアンにとって「決議23-34」はロータリーの本質と価値を深めるという点で大変な意味を持つわけですが、新会員の皆様も是非この点をご理解頂き、これからその意味を勉強して頂きたいと思ひます。

後藤 定毅 クラブ研修リーダー

先週の会員がクラブ運営に満足しているかどうかの「会員満足度アンケート」ですが、時間が無い中で多くの人から本音の声を届けていただきました。

当日は会員40名中32名出席、出席率80%、したがって32名のうち29名が回答されていますので90%の回答率でした。多くの人々が我がクラブに満足されているようで、「明るく打ち解けた雰囲気」「活発に活動している」「自由闊達なオープンな風土」という評価がある一方、「現状に不満な点がある」「何事も当たり障りの意見が通る」という厳しい

評価もあることを、執行部として胸に留めておく必要があると思います。

会員のためのオリエンテーションと教育、また地域への奉仕プロジェクト、国際奉仕活動は、「適当」という意見が多い半面、「不十分」という意見も多くありましたし、ロータリー財団、米山奨学会、地区主催のプロジェクトや他クラブとの交流親睦活動にももっと積極的にという要望が多くありました。

活動に関する費用としての意見は、概ね「妥当」とする評価が多いことがわかりましたが、「会費」を含めロータリー活動に関する寄付や募金に「過度」という意見があることにも耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか。

例会を楽しまれているかについては、ほとんどの人が楽しんでいるとの回答ですが、若い人には「仕事が気になり」「昼という制約が気になり」という現役人の悩みもあるようです。

我がクラブをさらに良いものにするにはどうしたら、という問いに、「良い講演者を探す」「多くの会員が活躍する機会を増やす」、今日見えた先日実施の障害者の方々のための事業をとの要望が、「地域社会と交流する機会を増やす」などの意見が多くありました。

会員の配偶者、家族とロータリーの関係では、ロータリーのことを知らない、関心がない、が多かったようですが、逆に誇りに思っている、という答えも多くあり、もっと進んで知りたい、あるいは交流を求める意見もありました。

今回の回答の多くは会歴20年以上が最も多く、次に3年以内が続いていましたが、とりもなおさず今回のみなさんのこの回答結果については理事会、あるいはクラブ協議会、クラブフォーラムで取り上げ分析し、会員がみんなで自分のクラブをより良いものにしていくというクラブ創りに活かして行

くことが必要であろうと感じた次第です。ご協力に感謝いたします。

ただいまのアンケートの結果をお聞きして、ヒントを頂きました。「ロータリーはどこへ向かうのか」の答えはわからなくとも「誰がロータリーの向かう方向性を決めるのか」はわかったような気がしました。方向を決めるのは、もちろん私たちロータリアンですが、中心となるのは新会員たちであり、これから入会される未来のロータリアンです。ロータリーは何を望まれているのか？何を期待されているのか？新会員から意見を聞くことも、一般社会のニーズやロータリーへの忌憚りの無い評価を知る一つの方法だと思えます。

というわけでこれからお時間の許す限り、皆さんからご意見を頂戴したいと思います。

最後にR情報・研修委員会からのコメント

どこにロータリーの魅力を感じるかは人それぞれで、新会員とベテラン会員とでは、ロータリーに対する意識や関わり方も違うと思われそうです。

新会員の皆様にはこれから例会に積極的に出席し、クラブの仲間とともに奉仕活動を行う中で、ロータリーの様々な魅力を発見・実感して頂きたいと思えますが、そのためにはロータリーの理念や歴史を正しく理解しておく必要もあると思えます。

真の親睦と奉仕を理解し、実践するために「ロータリーの基本」を全員で勉強し共有していきたいと思えます。

卓話の内容は下記アドレスまでお問い合わせ下さい。
naka-office@ynrc.jp

スマイルボックス 岸 幸博 委員長

本日 ¥37,000 累計 ¥140,500

横澤 創 会長、入江 公敏 幹事

松風園の春日理事長・目黒施設長・ご家族の皆様、ようこそいらっしゃいました。今年の梅雨は、地域によってはかつてない自然の猛威にさらされ、自然との付き合い方の難しさを感じました。夏本番はこれから、体調を整え、爽やかに乗り切りましょう。さて、本日はR情報・研修委員会のクラブフォーラムです。石川委員長、宜しくお祝い致します。また8月は「会員増強及び拡大月間」です。30日の夜間例会オブザーバーの紹介宜しくお祝い致します。

石川 健次 君、橋本 日吉 君

先週は「直前会長・幹事ご苦労さん会」を開いて頂きありがとうございました。ホメ殺しのような言葉が耳に痛かったです。

石川 健次 君

入会記念日のお祝いありがとうございます。平成元年の入会ですが、当時はクール・ビズもなかったし、いろいろな意味で大汗をかいて入会させて頂きました。高橋 政勝 君

松風園の春日理事長さんを始め多数お出で頂きました。先日の地引網には大変楽しい一日を過ごさせて頂きました。これからも宜しくお祈りします。

中島 康次郎 君

7月31日、8月1日の母の葬儀に際し、ご弔問またご厚志を頂き、誠にありがとうございます。梅田渡邊園さん、遠方にもかかわらず、本当にお世話になりました。

岸 幸博 君

先日の阿波おどり大会、無事に終えることが出来ました。ご協力ありがとうございました。